

スプリングレビュー調書

健康医療部

【基本政策】

生涯にわたる心と身体健康づくり

【新たな視点による政策提案】

- ◆ 浜松医療センター新病院構想の検討
 - ・ 建替えによる建設構想の検討

【第2次浜松市総合計画の計画期間(H23~26)における主要課題等】

- ◆ 長寿都市に向けた健康づくりの推進
 - ・ 市民の健康づくりの支援方法と民間との連携体制の構築
- ◆ 救急医療を含む医療体制の推進
 - ・ 救急医療体制の充実・自殺対策の推進
- ◆ リハビリテーション病院の整備推進
 - ・ H23年度 基本構想策定
- ◆ 動物愛護センターの整備推進
 - ・ H23年度 建設計画策定

【調査・研究を進めている案件、今後調査・研究を計画している案件】

- ◆ 浜松医療センター新病院構想の検討
- ◆ 健康都市連合への加盟を踏まえた取り組みの検討

【協議事項】(案件名を記入してください)

① 浜松医療センター新病院構想検討について

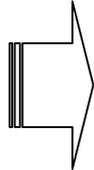
【現状と課題】

(論点とすべき点を下線で強調してください)

【現状】 浜松医療センターは昭和48年4月に開設(280床)

【基本理念】

- 地域住民のいのちと健康を守る最後の砦
- 安全・安心な地域に信頼される病院



【業務内容】

- 地域医療への貢献
救急医療、小児周産期医療、災害拠点など
- 医療水準の向上
高度専門医療、政策医療、医療スタッフの確保、教育研修事業の充実など
- 患者・住民サービスの向上 など

市民の健康の維持増進を図る基幹病院として地域医療に貢献(平成23年4月;606床)

【課題】

- ・ 築後、40年が経過し、施設・設備の老朽化が顕著
 - ・ 特に、手術センターなど急性期病院機能の中核において最新の医療機器の設置が困難な状況
 - ・ 施設利用アメニティーの低下
 - ・ 総合病院の新築・改築には多額の資金と期間が必要
- ※病院施設の耐用年数は39年(減価償却資産の耐用年数等に関する省令)
 ※1・2号館の免震工事により、地震対策については一定期間の建物耐用年数の延伸が図られている

【課題解決に向けた今後の方向性】

(論点とすべき点を下線で強調してください)

- ・ 現病院の建替えを視野に、浜松医療センターのあるべき姿、新病院構想について検討
- ・ 平成23年度中に(仮称)新病院構想検討委員会を立ち上げ、平成24年度中を目途に基本構想をまとめる

検討内容：

- ① 地域における医療センターの役割や位置付けの明確化等『医療センターのあるべき姿』
- ② 病床数等の規模や診療科目等の機能、用地選定等の『施設のあり方の基本方針』
- ③ 経営形態、健全化策、運営方針、組織体制等の『経営にかかる基本方針』
- ④ 既存施設の有効活用策の『既存施設の再利用』 など

【今後の主要事業】

(論点とすべき事業を下線で強調し、別途資料として政策・事業シートを添付してください)

浜松医療センター新病院構想策定事業 (H23~24年度)

平成23年度(仮称)新病院構想検討委員会の設置(年度末には新病院構想の中間まとめ)
 平成24年度 新病院構想の策定

【論点】

- ◆ 新病院構想について
 - H24 年度を目途にまとめる基本構想の検討内容について

【協議要旨】

- ◆ 新病院構想における課題を整理し、今後の方向性について、サマーレビューで協議する。

【協議事項】(案件名を記入してください)

② 長寿都市に向けた健康づくりの推進について

【現状と課題】

(論点とすべき点を下線で強調してください)

【現状】

- ・ 高齢化率の上昇に伴い、医療費、要介護者が増加している。
- ・ 健康寿命の延伸及び生活の質の向上を目的とする「健康はままつ21」に基づき、個人の健康づくり活動を社会全体で支援する取り組みをすすめている。
- ・ 「はままつ友愛の高齢者プラン」に基づき、高齢者等に対する各種事業（生きがい対策、生活支援、地域支援事業）が行われている。
- ・ 民間においても健康関連事業が数多く行われている。
- ・ 特定健診、がん検診受診率向上のための啓発が行われているが受診率は伸び悩んでいる。
- ・ 平成23年7月31日に浜名湖ガーデンパークにて「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」の開催が決定している。

【課題】

- ・ 長寿都市に向けた健康づくりの推進のためには、一次予防（健康維持・増進）を重視した取り組みが重要である。
- ・ 具体的内容としては、
 - ① 地域や学校、市民活動と連携したラジオ体操の普及
 - ② 特定健診、がん検診等の受診率の向上
 - ③ 健康づくりや生活習慣病予防のプログラムの展開（中高年男性向け）
 - ④ 健康都市連合への加盟に向けた取り組み

【課題解決に向けた今後の方向性】

(論点とすべき点を下線で強調してください)

平成23年度

- ・ 民間との連携により市民への啓発及び具体的な健康づくりプログラムをモデル的に実施。
- ・ 「1000万人ラジオ体操・みんなの体操祭」の開催を契機として、地域や学校、市民活動団体などとの連携によるラジオ体操の普及について検討する。

平成24年度～平成25年度

- ・ 健康づくりプログラムの再検討及び事業拡大。(実施箇所の増加)
- ・ 健康づくりプログラムの継続性の評価を行う。
- ・ 市民の健康づくりの支援方法と民間との連携体制を構築する。

【今後の主要事業】

(論点とすべき事業を下線で強調し、別途資料として政策・事業シートを添付してください)

○健康づくり企画事業

長寿都市に向けた健康づくり推進事業

【論点】

- ◆ 健康づくりや生活習慣予防対策のプログラムの進め方について
 - 中高年をターゲットとし、市内協カスポーツクラブと協働した運動プログラムの進め方について
- ◆ 健康都市連合への加盟を踏まえた取り組み検討について
 - 健康都市連合加盟のメリット・デメリットの報告

【協議要旨】

- ◆ 健康づくり事業については、周知・啓発の仕方について工夫する。
- ◆ 健康都市連合への加盟については、健康づくりの啓発手段として有効であり、準備を進める。

長寿都市に向けた健康づくりの推進について

生活文化部・社会福祉部・健康医療部☆

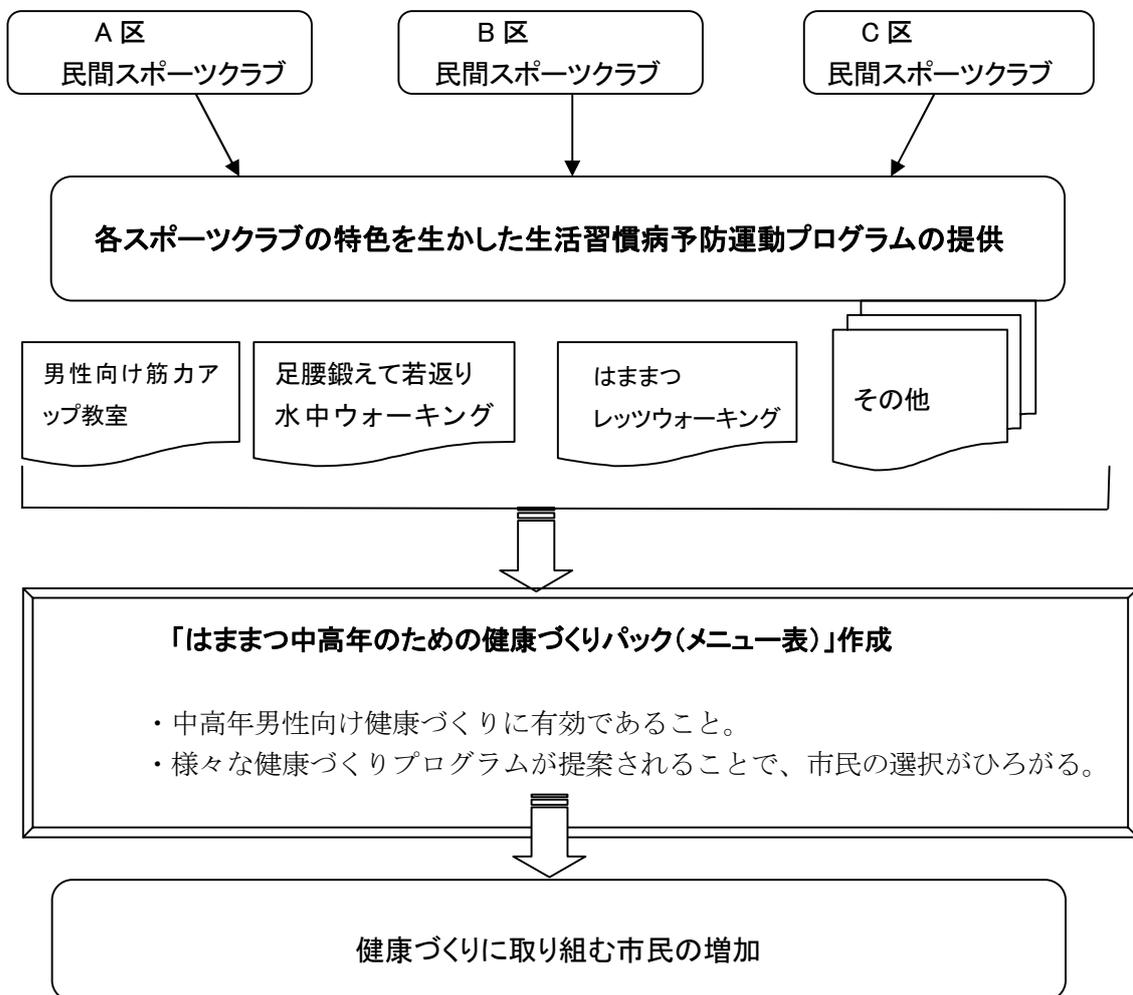
1 健康づくり事業の展開

■平成 23 年度:民間との連携による健康づくりの啓発及び具体的な運動プログラム提示

①啓発

新聞、フリーペーパーなど民間とのタイアップによる啓発を定期的を実施。

②具体的な運動プログラムの提示（モデル的に実施）



■平成 24 年度～平成 25 年度:事業の継続と健康づくりの継続性の評価及び協働体制の構築

① 事業評価 → 事業参加者アンケートにより評価

- ・新規に健康づくりに取り組んだ市民の数
- ・継続して取り組んでいる参加者の割合

② 健康づくりの継続性の評価

- ・評価結果を基にプログラム（内容、時間帯など）の変更を実施
→市民が取り組みやすいプログラム、開催時間など新たな開催方法の創出
- ・民間とのタイアップによるイベント開催

民間との協働体制の検討、構築

2 健康都市連合

健康都市とは

継続して都市の物的・社会的環境の改善を行い、

②人々が互いに助け合い、生活のあらゆる局面で自身の最高の状態を達成するために

③都市にある様々な資源を幅広く活用し、さらに発展させて行く都市

- *「健康」の観点で社会、経済、環境等あらゆる施策を再構築し、目標をたてて市民とともに実現していく都市と解される。

加盟都市

158の都市、団体

日本、オーストラリア、カンボジア、中国、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、ベトナム

*日本の加盟は、25自治体2団体

県内：袋井市 政令市：名古屋市、神戸市

その他：多治見市、我孫子市、市川市、尾張旭市、宮古島市、伊勢崎市、野田市、四街道市、佐倉市、八街市、川口市、鎌ヶ谷市、浦安市、松戸市、大府市、柏市、鴨川市、流山市、大和市、台東区、北名古屋市、亀山市、健康都市活動機構、(株)ユーボレイトデザイン研究所

会議など

- ・2年ごとに総会が開催される。
- ・日本支部があり、25都市が構成メンバー。
- ・日本支部内で毎年、輪番制で支部総会、大会を開催している。
(大会運営費は日本支部より補助金10万円程度はあるが、開催市負担。)

■ メリット

- ・健康都市宣言や関連大会の開催により市民への健康づくり啓発へつながる。
- ・健康都市間の情報交換

■ 加盟要件

- ・会費（ドル建て5万円＋日本支部会費1万円）の支払い
(自治体は、書類提出の必要がない)

■ 今後の展開

既存の健康増進計画（健康はままつ21）は、平成24年度に次期計画策定予定であり、健康都市を見据えた計画を検討していく。

平成23年度	平成24年度	平成25年度
<ul style="list-style-type: none"> 健康はままつ21最終評価に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> 次期計画検討 素案作成 	次期計画
調査実施、結果分析、最終評価	次期計画策定	

- 健康都市は、市としてのひとつの宣言であり、健康づくりへの考え方により加盟市間でもその取り組み方は様々である。